

城下こうさくメルマガ登録開始! ご登録をお待ちしております。

●空メールによる「城下こうさくメルマガ登録方法」についてご説明します。



①まず、QRコードを読み取って、記載されたアドレスに空メールを送ってください。



②次に折り返し、ご登録者様宛に本登録をお願いするメールが届きます。



③そのメールに記載されたメルマガ登録サイトにアクセスして、本登録してください。



④ご登録者様宛に、メルマガ登録サイトから本登録完了のメールが届きます。



⑤これら①～④の手順に従って本登録完了のメールが届いたら、メルマガ登録が完了となります。

※ガラ携もやり方は同じです。
①～④の手順に沿って、仮登録から本登録まで終了してください。下記のQRコードからどうぞ!



城下こうさくホームページのご案内!

皆さまの熊本県政へのご要望・ご意見を心よりお待ち申し上げております。

●熊本県議会議員(熊本市第一選挙区)
城下こうさく

プロフィール
PROFILE

政策
POLICY

活動報告
ACTIVITY REPORT

TEL 090-8661-7722
ホットライン
お気軽にご相談ください。

県議会通信
COUNCIL NEWS

本会議会議録
COUNCIL PROCEEDING



活動報告

RSS

熊本県

NEW KOMEI 公明党

●ホットライン《お気軽にご相談ください。》

県議会/096(333)2645・FAX096(385)9767・携帯電話/090-8661-7722

●ホームページ <http://www.shiroshita-kousaku.net/>

●メール shiroshita@kumamoto-komei.net



しろしたこうさく 城下広作県政報告誌

2016年 8月発行

県民の身近な代弁者

熊本県会議員

熊本市第1選挙区選出

熊本県庁

〒862-8570

熊本市水前寺6-18-1

Tel.096-333-2645

Fax.096-385-9767

第 75 号

ご挨拶

残暑の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃は大変お世話になっております。はじめに、この度の熊本地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

4月14日発災から、4か月以上が経ちましたが、益城町を始め被災を受けた市町村では未だブルーシートで覆われた家屋が多く見受けられます。私もこの約4か月、全国の方々から心温まる義援金や救援物資の仲介に奔走させて頂きました。また、6月議会では、会派を代表して代表質問を行いました。今回の質問は、震災による復旧・復興の在り方、それにもつわる問題点など、現場の声、専門家の声、何よりも被災者の声を代弁する立場で質問させて頂きました。被災前に戻るまではまだまだ時間がかかると思いますが、復興に欠かせない政府の財政的支援、心を痛めた被災者へ救済などに、今後も全力で取り組んで参ります。

謹白

平成28年8月吉日

県議会議員(会派公明党) 城下広作



公明党熊本議団(城下広作団長)は3日、県議会控室で同県菊陽町の後藤三雄町長と大津町の家入勲町長に会い、熊本地震からの復旧・復興に関する要望書をそれぞれ

受け取った。菊陽町の要望は、農業関連施設の早期復旧や、被災者の心のケアを行うための支援制度の創設などを13分野32項目。大津町は、新庁舎の建設に伴う

菊陽、大津両町から要望書

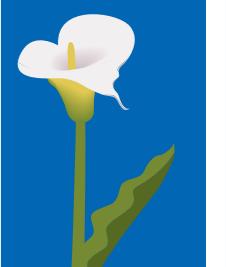
党熊本議団

財政支援や、特産品であるカラモノの貯蔵施設などに対する補償などを求めている。

席上、後藤町長は菊陽、大津両町をまたいで流れ農業用水路「上井出」に関して、早期復旧への取り組みと財政支援を要望した。家入町長は、発災直後から精力的に活動を続ける消防団や民生委員などに対して、特別手当を支給する制度の創設を訴えた。城下団長は、「党本部とも連携しながら、一つ一つ後押ししていく」と述べた上で、消防団などへの手当について「復興を陰で支えて下さっている人たちへの支援をしつかり考えたい」と答え

首長からの要望を積極的に聞いています!!

6月定例県議会開連記事



●熊日新聞6月7日付

6月6日(日)、定例県議会代表質問が行われました。今回質問は、震災の影響で本会議場が使えなくなつたため、全員協議会室で行われました。

仮設転居を容認

熊本復興へ観光底上げ

県議会で物資供給の体制強化も

熊本地震の復旧・復興対策に向けた一般会計補正予算案などを審議する熊本県議会の6月定例会が1日に開会した。地震によって本会議場が被災したことから、定例会は議会棟の全議会室で実施されている。

6日の本会議で代表質問に立つ城下議員は、「地元議員は、災害時の食料供給について取り上げ、「地元企業であれば地域の道路状況に詳しく、機動力にもたけており、マンパワーも備わっている」と強調。多くの地元企業の協力が得ら

れば、被災直後の食料品の配給に大きく貢献できる」として、食品卸売業など民間企業との協力体制の強化を求めた。

これに対して蒲島郁夫知事は、「今後の検討の中で民間企業や団体との連携を活用しながら、多角的に対応できる物資供給体制の構築

地について「(魅力を)最大限にアピールして県全体の観光を底上げすべき」と訴えた。

蒲島知事は、インバウンド(訪日外国人)向けのプロモーションを実施する考えを示し、「観光復興会議(仮称)」を設置の上、新たな目玉を発掘し、創造的復興にふさわしい熊本観光を組み立てる」と答えた。

そのほか、城下議員は、「さきに城下議員は、一部を除き立ち入り禁止となつてある阿蘇地域について言及し、「観光の目玉が被害を受けたことで熊本県への観光客が減少する恐れがある」と指摘。比較的被害の少なかつた県北・県南地域の観光

県は6日、熊本地震で県内外の公営住宅に避難した被災者が、応急仮設住宅やみな仮設住宅に転居できるようになったことを明らかにした。内閣府との協議で弾力的な対応が認められたため、例外的に仮設住宅やみな仮設住宅に転居できるようになつたため希望者は仮設住宅の入居対象に含めるよう要望していた。

県によると、公営住宅の場合は地元に居住でき、民間アパートなどを利用するみな仮設住宅は地元以外にも住めるという。いずれも地元市町村に申し込み。

●公明新聞6月7日付

県は6日、熊本地震で県内外の公営住宅に避難した被災者が、応急仮設住宅やみな仮設住宅に転居できるようになったことを明らかにした。内閣府との協議で弾力的な対応が認められたため、例外的に仮設住宅やみな仮設住宅に転居できるようになつたため希望者は仮設住宅の入居対象に含めるよう要望していた。

県によると、公営住宅の場合は地元に居住でき、民間アパートなどを利用するみな仮設住宅は地元以外にも住めるという。いずれも地元市町村に申し込み。

●公明新聞6月7日付

県によると、公営住宅に入居する被災者は5月末点で1100世帯2670人以上。内訳は、県外が30都道府県に493世帯1147人、県内が23市町村に607世帯1523人。(藏原博康)

同日の県議会代表質問で、蒲島郁夫知事が公明党の城下広作氏(熊本市1区)に答弁。知事は「罹災証明書発行などの機会を通じ、公営住宅の避難者に漏れなく情報を提供するよう市町村に求めている」と述べた。

県によると、公営住宅に入居する被災者は5月末点で1100世帯2670人以上。内訳は、県外が30都道府県に493世帯1147人、県内が23市町村に607世帯1523人。(藏原博康)

※議会の場だけでなく、被災者の声をその都度、ネットワークを活かし、解決国・県・市町村へと連携を取り、解決に向けて取り組んでいます。

6月議会の質問項目



- 平成28年熊本地震復旧・復興対策における知事の決意について (知事)
 (1)復旧・復興計画に関する知事の注力点
 (2)被災市町村への県職員の派遣
- 被災庁舎と住み替え住宅への対応について (知事)
 (1)被災した市町村庁舎に対する認識と今後の支援
 (2)避難所から住み替え住宅への移行に関する問題点
- 災害時の食料供給における民間との協力関係の在り方について (知事)
- 文化財、文化施設の復旧と文化芸術への取り組みについて (知事)
 (1)県下の文化財の被害の現状認識と今後の復旧
 (2)文化施設の復旧と文化芸術への積極的な取り組み
- 東海大学農学部の存続について (知事)
- 被災地域の中高等学校への様々な影響について (教育長)
 (1)登校日数の不足に伴う授業、行事への影響と今後の対応策
 (2)児童、生徒の転校に係る実態把握
 (3)児童、生徒の心と体の健康被害とその対策
- 避難行動要支援者対策について
 (1)避難行動要支援者への対応 (知事)
 (2)避難行動要支援者に対する避難所の在り方 (健康福祉部長)
 (3)被災者に対する宿泊施設提供事業 (健康福祉部長)
- 本県の観光対策について (知事)
 (1)震災に伴うクルーズ船の寄港への影響
 (2)阿蘇観光の復興戦略
 (3)被災の少なかった観光地の売り込み等観光客減少への対応
- 災害廃棄物の処理について (環境生活部長)
 (1)倒壊家屋の解体費用を巡る対応
 (2)家屋解体に伴う一時保管用の仮倉庫の設置
 (3)災害廃棄物のリサイクルと減量化
- インフラ整備の対策について (土木部長)
 (1)県内事業者の受注への対応と技術者の確保
 (2)公共基準点のずれ、ひずみへの今後の対応

6月30日、熊本県にとつてなくてはならない重要な幹線道路の安定した予算確保や事業推進の取り組みを実施するために、関係首長が石井国土交通大臣に要望しました。この要望に対し、全力で取り組んで参ります。

7月14日、福島から思いがけないメンバーガ
来熊されました。津波や原発といった被災に
遭われても、力強く前を向いてフラダンスを
披露されている姿に感動しました。面談後、
東北・福島「ガンバレ」、熊本「ガンバレ」とお互
い励まし合いました。

“命の道”整備を促進

党熊本県本部 政策要望懇で石井国交相



荒木会長から中九州横断道路に関する要望書を受け取る石井国交相ら=30日 熊本市

席上、荒木会長は、熊本・大分両県を結ぶ地域高規格道路「中九州横断道路」について「沿線住民の生活道路であり、災害時には“命の道”になる」と強調。事業中の箇所の整備促進や予算確保などを求めた。石井国交相は「熊本地震などの災害時には幹線道路をダブルルートで持つことが重要になる。しっかりと取り組みたい」と答えた。

一方、田嶋章一・芥北町長から「長崎・天草航路」に対する離島航路と同等の支援強化を、熊本天草間幹線道路整備促進期成会（中村五木会長＝天草市長）などからは同道路の整備促進を求める声がそれぞれ寄せられた。

© 2010 by Linda Ward Beech, Scholastic Inc.

一日も早い復興に向付全力投球！

石井国交相「夏休み前に実施」
が熊本視察



県の担当者から仮設住宅の建設状況を聞く
石井国交相(中央)ら=18日 熊本・益城町

石井啓一国土交通相（公明党）は18日、熊本県を訪れ、熊本地震からの復旧・復興に向けて進み始めた被災地の現状を調査した。石井国交相はまず、甲佐町の仮設住宅を訪れ、入居者から暮らしの状況を聞いた。

の城下広作県議と共に仮設住宅の建設現場を視察。県の担当者から、建設の進み状況について説明を受けた後、蒲島郁夫県知事が「観光振興のために、九州の高速道の料金割引制度を導入してほしい」との要望を受けた。

が代行して復旧工事を進めることになった県道熊本高森線や阿蘇長陽大橋などの被災状況を視察した。

●公明新聞6月19日付



石井国土交通大臣5回目の来熊!!

4月29日、阿蘇大橋地区(南阿蘇村)の視察を皮切りに、益城町長との意見交換後、宇土市役所、熊本港、熊本城を視察、翌30日には、ヘリにて被災地を視察、その後、西原村村長、熊本市長、蒲島知事を訪問、意見交換をされました。また、5月15日には阿蘇神社視察、阿蘇市長や観光団体との意見交換、6月18日には甲佐町、益城町の仮設住宅建設地を訪問後、長陽大橋、南阿蘇鐵道を視察、7月16日には西原村、熊本市城南町、宇城市、益城町の仮設住宅を訪問、入居者を激励されました。

国土交通大臣がこの様に被災地に立て続けに入って頂いたことは非常に珍しいことと思います。
石井大臣、本当にありがとうございました。

ヤー施設「スパリゾートハワイアンズ」のフラガールたちが14日、熊本県内で蒲島郁夫知事に被災地復興のための義援金を届けた【写真】。

これは公明党の濱地雅一衆院議員が同施設から「東日本大震災のときに支援してもらった恩返しがしたい」との相談を受けたことがきっかけ。党熊本県本部の城下広

◇ 公明が仲介 ◇

作幹事長（県議）が仲介し、実現した。

熊本地震の発生を受け、フランクルたちは全国各地での公演を通じて募金活動を実施。この日は義援金を手渡すとともに、フランクスを披露。蒲島知事は「とても癒やされた。義援金は復旧・復興のために大切に使わせていいだく」と語った。

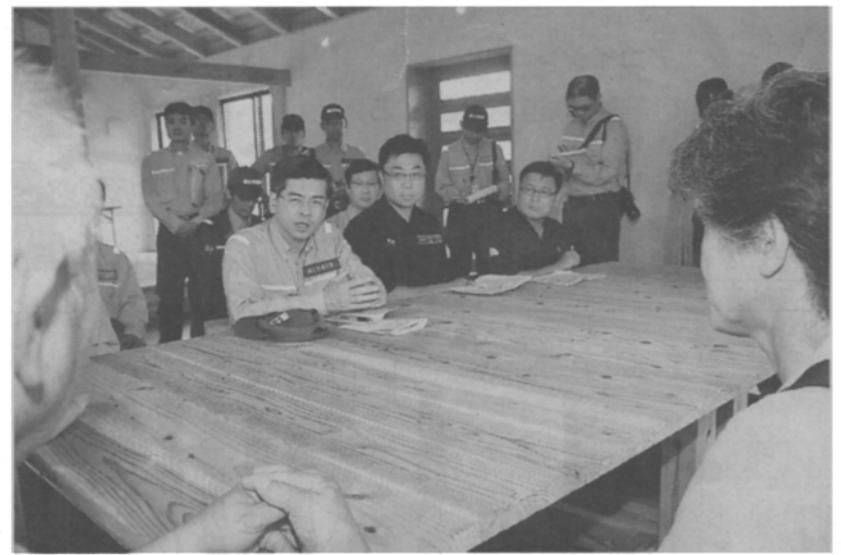
◇ 公明が仲介 ◇

作幹事長（県議）が仲介し、実現した。

熊本地震の発生を受け、フランク・ガーネルたちは全国各地での公演を通じて募金活動を実施。この口は義援金を手渡すとともに、フランク・ガーネルのスケジュールを披露。蒲島知事は「とても癪にやされた。義援金は復旧・復興のために大切に使わせていいだく」と語った。

待ちに待った仮設住宅が完成!!

十分な広さはありませんが、まずは心と体が休める場所が一番。復旧・復興の道程は遠いかも知れませんが、皆様の暮らしが少しでも快適になるように頑張ります!!



入居者と意見交換する石井国交相（正面左）ら
=16日 熊本・西原村

石井啓一国土交通相（公明党）は16日、熊本地震で被災した住民の居住環境の現状と課題を調査するため、県内4カ所の仮設住宅

●公明新聞8月4日付



坂梨議長（右から4人目）らから要望を受ける江田氏（左隣）
26日衆院第1議員会館

石井啓一国土交通相（公明党）は16日、熊本地震で被災した住民の居住環境の現状と課題を調査するため、県内4カ所の仮設住宅

●公明新聞8月4日付（一部抜粋）

居住環境の整備を推進

城町）を相次いで調査し、室内などを見て回った。

は「豪雨の影響で建設が遅れた地域もあった。いま多くの被災者が避難生活を強いられている現状を受けた石井国交相は、「敷地内の水はけの改善や車いすが通れるようトイレの入り口を広げてほしい」などの要望が寄せられた。

続いて訪れた熊本市城南町塚原仮設団地（同市南区）で石井国交相は、入居者から収納スペースの増設や家電設備の支援などについて要望を受けた。その後、今月中に完成予定の当尾仮設団地（宇城市）と県内最大規模のテクノ仮設団地（益

●公明新聞7月17日付

江田氏 熊本・西原村議会から要望

「頑張ってくれ」の声に全力投球！
●公明新聞7月27日付



熊本県が復興プラン策定！

熊本県は3日、熊本地震からの復旧・復興プランをまとめ、2019年末までに被災者が仮設住宅で生活する状況を解消するとの目標を掲げた。プランは19年度までの4年間に取り組むべき主要施策として、24項目を列挙。このうち住宅関係では、災害公営住宅の建設に注力し、被災者が仮設住宅への入居後2年をめどに移ることができるようとする。さらには県内の全市町村で住宅耐震化の補助制度が整備されるよう支援する。公明党熊本県議団は、蒲島知事に対して緊急要望を行うなど、一貫して早期復旧・復興を協力に後押ししてきた。

●公明新聞8月4日付（一部抜粋）

●公明新聞8月30日付

公明議員 地域住民らが集い夏祭りが尽力 県立劇場の再開祝う

●公明新聞8月29日付

復興に向け 一步ずつ前進!!

園児に広がる笑顔！



「わあ、とってもかわいい！」
熊本地震で大きな被害を受けた熊本県西原村の「村立にしら保育園」（園田久美代園長）に25日、公明党熊本県本部の仲介でピエロの人形10体が届

く見守る園田園長は「手作りの人物に込められた真心が何よりも嬉しい。子どもたちが笑顔になれたことに心から感謝します」と喜びを語っていた。

●公明新聞8月29日付

平穏な生活が一番大事！

北九州市から手作り人形

公明の連携で届ける

けられ、喜ぶ園児の明るい笑顔が広がった【写真】。

ピンクやオレンジなどのカラフルな衣装をまとった人形は

福岡県北九州市に住む森一静子さん（89）が「未来の宝である子

どもたちの喜びにはば

が願いを込めた手作り。この日の贈呈は、森一さんの真心を知った公明党の岡本義之・北九州市議と熊本県本部との連携プレーで実現したもの。城下広作（幹事長）（県議）と森元秀一・阿蘇市議が手渡しした。



県立劇場の再開を祝う「県劇夏祭り」に駆け付けた城下県議（左端）

終戦記念日の街頭講演会を実施

8月15日、毎年恒例の終戦記念街頭演説を、今年は熊本駅前の広場で行いました。戦後71年目を迎え、戦争経験者も少なくなっていく中、平和の尊さを繰り返し訴え続けることがとても重要な事だと考えていました。



コンサートホール天井の一部剥落、照明器具の故障などが発生。再開後も外壁工事は続けられ、駐車場の一部が使用できないという。今回の夏祭りは、同劇場が取り組む被災者のこころの復興推進事業「アートキヤラバンくまもと」の一環だ。県立劇場の再開を祝う「県劇夏祭り」には、城下議員が、熊本地震からの復旧・復興対策を審議する6月定例会で、県民の「こここの復興」というとの観点から、早期再開とともに、イベントの開催を求めていた。

として行われたイベント。屋外ステージでは、地元の高校や大学など9団体が躍動感あふれる太鼓演奏やテコンドー、ダンスなどを披露。フイナーレでは、屋外に組まれたやぐらを参加者が囲んで創作盆踊りを楽しん